

思考力・表現力の育成

～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の改善～

I 研究の内容

1 研究の目標

- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に努め、児童の思考力・表現力を育成する

2 研究の具体的内容

(1) 学級づくり・集団づくり

- ア Q-Uアンケート実施及びK13法による分析・「今後の対応策」の検討
- イ 各学年の「今後の対応策」の共有化、不満足群の児童の再確認

(2) 授業づくり・授業改善

- ア 各教科等における「主体的・対話的で深い学び」についての理論研究
- イ 問題解決型の授業研究・「甲州市 Teacher's Note」を活用した授業づくり
第5学年 社会科授業研究「自動車づくりに励む人々」

授業者 中村 弘和教諭

指導・助言 義務教育課 植松 聖人指導主事

指導・助言 峡東教育事務所 三森 公仁指導主事

第1学年 国語科授業研究「じどう車くらべ」

授業者 小林由紀子教諭

指導・助言 山梨県総合教育センター 小尾俊彦主幹・指導主事

ウ 学習会「道徳教育の推進について」

講師 甲州市教育委員会 教育総務課 那須 丈彦指導主事

エ 一人一実践（授業研究者以外全員）

オ 授業の構造化 板書用「めあて」「まとめ」プレートの制作・配布・活用

カ Q-U分析結果を載せた指導案づくり・座席表づくり

キ 思考力・表現力についての意識調査の実施（年2回）

ク NRT検査，平成29年度「全国学力・学習状況調査」，3・5年「県学力把握調査」結果の分析と今後の対策の検討・学習学年一覧表の作成，活用

(3) 保護者との連携

ア 「家庭学習の手引き」を利用した家庭学習ノート（いじりの子ノート）の指導・保護者への周知

イ 各学年の取り組みについての情報交換・系統的な支援の共通理解

ウ 授業参観に合わせた「いじりの子ノート展覧会」の実施

II 成果と課題

1 成果

- (1) 各ブロックで充実した Q-U 分析ができ、子どもの対応や学級経営に生かすためのアイデアを出し合うことができた。また、みんなで話し合ったことにより、課題を持つ児童の確認ができ、職員全員で言葉がけができたこともよかった。
- (2) 「めあて」「まとめ」のマグネットシートを使って授業を行うことが、日常的になり、授業の構造化を意識することが定着してきた。年度当初には、「甲州市 Teacher's Note」を読み合って共通取り組みを確認し、授業づくりに生かすことができた。
- (3) 意識調査は、児童の実態を数値として見とれるため、児童の変容を把握することができた。全学年が、2回目の方が数値が上がっている項目が多く、思考力・表現力を育成するための取り組みの成果が表れた。
- (4) 「いじりの子ノート」の取り組みでは、各学年の取組の様子を情報交換し、系統的な指導へとつなげることができた。また、授業参観時のいじりの子ノート展覧会や担任以外の先生方にコメントをいただく日を設定したことなどで、児童の意欲を高めることができた。

2 課題

- (1) Q-U 分析を丁寧に行ってアタックシートを作成できたので、今後は更にアタックシート集とともに活用していきたい。
- (2) 授業の構造化を意識し、「めあて」「まとめ」のマグネットシートの提示はできたが、「めあて」がその時間の見通しに、しっかりと繋がっていたかという点においては、まだ十分ではない。児童と共に考え、作っていく「めあて」「まとめ」になるような手立てについても考えていきたい。
- ・ (3) 「家庭学習の手引き」・「いじりの子ノート」については、来年度も、年度初めに職員の意志の統一を図っていきたい。また、家庭での働きかけをどのように行っていくと更に家庭学習が充実するのかについても深めていきたい。

III 成果物

- 1 Q-Uアタックシート（全学年）
- 2 授業研究授業案・一人一実践授業案及び実践のまとめ
- 3 思考力・表現力についての意識調査
- 4 井尻小「家庭学習の手引き」（低・中・高）
- 5 平成 29 年度「全国学力・学習状況調査」、山梨県 3・5 年「学力把握調査」出題問題 学習学年一覧表

（研究主任 遠藤香織）